

# 博多周辺の寺社と史跡めぐり

18. 5. 30～31

齋木 敏夫

福岡空港に11時30分13名が集合し、バスに乗り、博多駅に向かった。そこで7名が乗り込み、合計20名で旅が始まった。まず昼食場所のある天神に向かった。

## 昼食峰松本店

地下1階にある店で奥の部屋に入った。まず五種類の自家製の蒲鉾とパラパラごぼう(薄く切ったごぼうの天ぷら)とビールが出てきた。かまぼこはどれも美味しく、ビールを飲み、お腹が膨れたところに、「どんめん」という大きな器に湯麺風の野菜たっぷり、具沢山のうどんが出てきた。麺は太目の博多うどんだが柔らかい。完食はできなかったがさっぱりした味で美味しかった。

食後バスは高速道路に入り、太宰府方面に向かった。水城ICで一般道に入り、太宰府政庁跡の方に向かい、政庁跡の正面で右折した。

## 観世音寺(太宰府市)

境内に入ると石田住職が案内して下さった。西南学院大学名誉教授で日本考古学協会会長もされた方で詳しく説明してもらった。寺は天智天皇により発願され、746年に完成したと一般に言われるが、住職の見解では1. 梵鐘(国宝)が698年の作と伝わる妙心寺の梵鐘(国宝)より古い。2. 日本書紀に682年に太宰府に大鐘を貢納し、686年には封二百戸が観世音寺に施入されたと記されている。

3. 686年に川原寺の伎楽が移送されている。以上のことから686年に落慶したのではないかと云われた。梵鐘は糟屋郡上三毛(カヅメ)で造られたようだ。806年に唐から帰国した空海は都に戻るまで当寺に留まっていたようだ。菅原道真の詩に「都府楼は纔(わず)かに瓦色を看る 観音寺は唯(ただ)鐘声を聴く」とあるのはこの鐘である。京都妙心寺の梵鐘(法堂に安置「黄鐘調の鐘」と兄弟鐘といわれている。伽藍配置は塔跡が東にあり、金堂(県指定)が西側にあって東向きになり、正面に講堂(県指定)がある。法隆寺の伽藍配置に似ているが金堂と塔の位置が逆である。講堂に向かって左側に碾磑(テンガイ)というおおきな石臼のようなものがある。その用途は、寺院建築の際塗料として使用した「朱(水銀)」を粉末にしたものではないかと云われた。東大寺に転害門がある。古い時代には碾磑御門堂と云われていたようだ。基壇部の一部に観世音寺の碾磑と同じく、完全な平面加工の形跡があるそうだ。講堂は1688年建立、入母屋造、裳階付、鴟尾が付いている。前には灯籠が正面に一基建つ古い形式、しかし灯籠は新しく二基造立したが古代寺院にふさわしくなく、一基にしたそうだ。中に入り、聖観音立像(重文)を拝観した。像の頭部に簾が下がり、やや見にくかった。金堂は1631年建立、以前は阿弥陀如来が祀ってあったそうで扁額は阿弥陀堂になっている。窓越しに中を覗くと不動明王が安置されている。次に宝蔵に入った。1959年伊藤忠太の設計により、正倉院風になっている建物だ。一階の「観世音寺絵図」を見て二階に上がると左側面に木造地藏菩薩立像(重文)がある。平安時代の作で像高約140cm、楠木の一木造り、ほぼ直立し錫杖を持たず、左手に宝珠を持っており、古風な感じだ。木造兜跋毘沙門天立像(重文)は不在、木造地藏菩薩半跏像(重文)も楠木の一木造り、平安時代後期の作、像高124cm、岩座に座り左足を下げ、右手に錫杖を持つよく見られる姿勢で親しみを感じさせる像だ。その隣に舟形光背を背にした十一面観音立像(重文)がある。増高103cmであるが堂内では一番小さく、檜の一木造だ。

聖観音坐像(重文)の 増高は 321 c m と大きく、檜の寄木造りで平安後期の作だ。中央に 5m 前後の巨像が三体並ぶ。向かって左の十一面観音立像(重文)は平安中期の檜の寄木造、花が開いているように置かれた頭上面が印象的で体はほぼ直立し、安定感ある立ち姿だ。馬頭観音立像(重文)は像高 503 c m、堂内で二番目の高さ、檜の寄木造、平安後期の作で四面八臂の馬頭観音は唯一のものだ。四面の額には第三の目(心眼)が刻まれている。不空羂索観音立像(重文)は像高 517 c m で一番大きい。鎌倉時代の作、楠木の寄木造で三目八臂、丸顔で優しい感じだ。前身は創建時の本尊で寺院名の由来となった像であったようだ。次に阿弥陀如来坐像(重文)を囲むように四天王像(重文)がある。この阿弥陀さんは金堂の本尊であったそうだ。像高 219.7cm、楠木の寄木造で線光背を背にして阿弥陀定印を結んで座っている。12 世紀前半頃の作のようだ。四天王は平安時代中期の作で持国天、増長天、広目天、多聞天の順に立っている。いずれも楠木の一木造で 2m を超える大きなものだ。木造大黒天立像(重文)は 12 世紀の楠木の一木造で像高 171.8 cm、堂内では小さく見えるが大黒天像の中で最も大きな像、最古のものでよく見る大黒さんとはイメージが違う。十一面観音立像(重文)は鎌倉時代の作、桧の一木造、像高 303 cm、先に見た大きな像と区別するため新十一面といわれ、違いは左手に持つ蓮華の花が相対的に小さい。吉祥天立像(重文)は 12 世紀初頭の作、楠木の寄木造で像高 215.5cm で吉祥天としては国内最大級のものだ。衣文が浅く、形も意匠化され、平安後期の特徴を示している。堂内に 16 体の大きな仏像があり、楠木で造られた像が多い。飛鳥時代に造られた法隆寺の救世観音、百済観音は楠木で造られたがその後は楠木の目立った像はないが当寺に多いのは九州には楠木が多く、当寺の境内にも多く生えており、それを利用したためであるのかなと想像した。鎌倉時代の石造狛犬 2 軀(重文) や木造舞楽面 3 面(重文)を見て外へ出た。

### 戒壇院 (太宰府市)

聖武天皇の勅願により、鑑真によって観世音寺境内の西南部の一角に戒壇院が設けられ、東大寺、下野薬師寺と共に天下三戒壇の一と云われた。門を入ると菩提樹がわずかに開花し、黄色の小さな花や蕾が沢山垂れ下がっていた。鑑真が中国から持ってきたと伝えられるものだそうだ。禅宗様の本堂(県指定)に入り、平安末の本尊木造廬舎那仏坐像(重文)にお参り、本尊の両脇には市指定の文殊菩薩像(向かって右)、弥勒菩薩像(左)が立っている。「753 年に坊津に上陸した鑑真がその年の 12 月に太宰府を訪れ、この戒壇院の地で初の授戒を行った。観世音寺は大宰府の衰と共に衰え、東大寺の末寺となり、搾取された。16 世紀には島津氏と大友氏方の高橋紹運(立花宗茂の実父)との争いの舞台となり、破壊され、極めつけは豊臣秀吉が進出してきた際に別当が輿に乗り、挨拶に行ったのが無礼とされ、領地の大半を没収された。そのような状態の中、江戸時代には戒壇院も無住化し、真言宗や禅宗の僧が住むようになり、宗派間の争いになったが黒田藩の仲介により、1703 年に独立し、臨済宗妙心寺派の寺となった。」以上が住職の話の要旨だ。

本堂を出てバスに戻り、春日市の奴国丘歴史資料館に向かった。

### 奴国丘歴史資料館

金印「漢委奴国王」で知られる「奴国」の中心地、須玖(スグ)岡本遺跡(史跡)の一角が歴史公園となり、その一角に資料館がある。「奴国」は魏書に出てくる弥生時代の代表的な大国で王墓の墓(甕棺墓)やその出土品、青銅器(銅剣、銅戈など)、それを造る鋳型等をガイドの説明を聞きながら見学した。広形銅矛、小銅鐸、小型鏡、ガラスの勾玉の鋳型もあり、高度な技術集団により造られた品々は周囲の国にも移出されていたようだ。

その後鉄器を作るようになり、前方後円墳が出来、仏教が伝来すると瓦窯も出来た。丸瓦と平瓦の遺物もあった。見学を終え、一路博多のホテルに向かった。

### ホテルルートイン博多駅前

部屋に入り、少憩して地下1階にある「はなの舞」で夕食となった。飲み放題で楽しい一時であった。翌朝温泉に入り、バイキングの朝食を食べ、8時に出発した。

### 宗像大社（宗像市）史跡

ご祭神は田心姫(タコリヒメ)神、湍津姫(タギツヒメ)神、市杵島姫(イチキマヒメ)神の宗像三女神で皇室・国家の守護神といわれ、国家祭祀の場であった。延喜式名神大社で旧社格は官幣大社だ。古代から大陸と半島の政治、経済、文化の海上路であり、海上・交通安全の神として信仰されている。天武天皇の実子・高市皇子の母は宗像氏（後に代々の宮司家）の祖・胸形君徳善の娘「尼子娘」であった。権禰宜の吉武氏が境内を案内してくれた。彼は沖ノ島の「沖津宮(オキツノミヤ)」に5月の中頃までの10日間、務めており、夏はブヨが多くいて、冬の方が過ごしやすいついて言っていた。しかし真冬の禊は大変だろうなと思った。鳥居をくぐると太鼓橋がある。両側の池は周囲の木々に囲まれ、眺めが素晴らしい。本殿（重文）は切妻造、五間社両流造、柿(コケ)葺で大屋根が美しい。千木は垂直、鯉木は5本、女神を祀っているのに奇数になっているので質問したが決まりは絶対的なものでなく例外も多いといわれた。1578年大宮司宗像氏貞が再建したものだ。宗像氏本家の血筋は絶え、現在の宮司は宗像氏でなくなったそうだ。辺津宮拝殿（重文）は切妻造、柿葺、筑前領主であった小早川隆景によって1590年に再建された。宝物館に入り、国宝のヒスイの勾玉、金製指輪、金銅製龍頭等沖ノ島出土品等を見学した。昨日観世音寺で見た石造狛犬（重文）は阿形が右前足で手毬をとり、吽形は左前足で子獅子を抱いているのに対し、こちらの像は子獅子と毬の組み合わせと阿吽が逆となっているのが面白かった。館を出て拝殿、本堂の周りを歩き、沖津宮を祀る第二宮、中津宮を祀る第三宮を拝んだ。社殿は昭和50年に伊勢神宮の内宮別宮であるイザナギの宮、イザナミの宮の社殿を遷宮に際し、特別に下賜されたものだそうだ。集合時間もせまっておき、高宮祭場には行かず、駐車場に戻った。

### 香椎宮

ご祭神は仲哀天皇、神功皇后、応神天皇、住吉大神だ。楼門をくぐると朱色の鳥居があり、その先の赤い囲いに囲まれた所に神功皇后が剣、鉾、杖を埋め、その上に植えたといわれるご神木の綾杉がある。枝は囲いを超え、大きく枝を広げている。左に曲がり、左右に廻廊をめぐらした朱塗りの中門をくぐると吹き抜けの拝殿がある。お参りを済ませ、正面から本殿（重文）を見ると千鳥破風が二つある複雑な形で香椎造りといわれ、1801年に十代藩主黒田斉清が再建したものだ。基本的には入母屋造、平入で拝殿に続く妻側は葺戸で仕切られている。吹き寄せ菱格子の瑞垣に囲まれ、入り口には注連縄がかけられている。瑞垣があり、見にくいが続く破風の部分もある。屋根は檜皮葺、内部は梁間三間を外陣・内陣・内々陣に分け、かつ外陣左右に「獅子間」があるそうだ。

### 昼食 博多芙蓉別館

松花堂弁当をいただき、ビールを飲み、楽しい食事であった。

### 東長寺

真言宗別格本山、空海による最初の真言密教の寺といわれる。山門の新しい仁王さんを見て中に入り、六角堂（市指定）を見て昭和にできた博多大仏を見学した。2階の大仏殿には大きな木造の釈迦如来坐像があり、台座内に地獄・極楽めぐりが設置されている。

地獄絵巻のレリーフが有り、その先に真っ暗な通路があり、手すりをたより進み、途中にある「仏の輪」に触って元に戻った。平成になって出来た美しい五重塔を見て福岡藩主黒田家墓所（市史跡）に行った。二代忠之、三代光之、八代治高の大きな五輪塔があった。塀越しに珍しい真紅のキョウチクトウが美しかった。その横に名島門（市指定）がある。小早川隆景が築いた名島城の脇門で黒田長政が城を福岡城に移した際に家臣に渡され、その後転々として現在地に移された。長政は当初名島城（東区名島）に入り、1年後に福岡城を築き始める際にその古材を利用したそうだ。

### 鴻臚館跡(史跡)

福岡城跡にあり、少し離れた駐車場から「三の丸」と「二の丸」をつなぐ東御門跡を通り、舞鶴公園に入った。本丸・二の丸・三の丸跡が舞鶴公園として整備されている。石垣等を見ながら歩いた。鴻臚館は古代の迎賓館に当たる施設で筑紫館(ツクシムロツミ)と云われ、同様の施設が京都、大阪および博多に置かれた。その中で唯一の発掘例だ。平安時代になって中国風の「鴻臚館」という名に変わった。遣唐使が廃止されるようになると交易の場が変わった。1047年の放火事件の後は歴史から消えている。現場はかつての西鉄ライオンズのホームグラウンド・平和台球場跡にあり、昨年で発掘30年が経過し、鴻臚館跡展示館が出来ている。中に入り、説明を聞きながら館内を廻り、大量の白磁や青磁、ペルシャ系のガラス器、イスラム系陶磁器、瓦等の遺物を見学した。宿泊施設もあり、遣唐使もここから出発した。トイレ跡からはトイレットペーパー代わりに木片(籌木チュウギ)も発掘され、中には木簡を転用したものもあったそうだ。博多から高速道に乗り、糸島市に向かい、唐津街道の周船寺(セゾ)駅近くで左折して南に向かった。

### 伊都国歴史博物館（糸島市）

伊都国は小さい国ながら政治・外交上の重要な拠点であり、南は背振山地で吉野ヶ里へと繋がっている。中国の朝鮮支配の拠点「帯方郡」は伊都国に郡使を常駐させ、耶馬台国は諸国を監察する役割を持つ「一大卒」を置いていた。館内に入り、歴史ガイドの説明を聞いた。2階は平原遺跡の模型が展示してある。3階に上るエスカレーターは狭く、薄暗く作られており、鳥の鳴き声だけが聞こえ、現代と伊都国をつなぐタイムトンネル」となっている。平原遺跡の出土品は青銅鏡40面・鉄刀・瑪瑙(メノウ)の管玉・ガラス製勾玉、ピアスなどは国宝になっている。なかでも銅鏡「内行花文鏡」は直径46.5センチメートル、重さ8kgもあり、日本最大の出土鏡で圧巻である。5面出土し、4面が当館にある。破砕された状態で発見されたようで巫女で女王であった人が亡くなった後に破壊されたのかなとか、鏡の円周が八咫(145cm)であるそうで八咫鏡の元になり、鉄刀、ガラス製勾玉と三つ合わせると三種の神器の元になるのかなと想像した。卑弥呼とは40年くらい年代が違うそうだ。その他 甕棺・木棺外壁に張られた飾り金具・璧などを見学した。

### 平原遺跡 1号墓（史跡）

少しバスに乗り、駐車場から少し歩くと囲いに囲まれて方形周溝墓がある。塑像していたのより小さい感じがした。伊都国女王の墓で先ほど見学した国宝の出土した所だ。付近には元首相海部俊樹氏の揮毫による「平原遺跡」の石碑があり、歴史公園として整備されている。

見学を終え、博多に向かい、空港で博多駅まで行く人と別れ、19時発の飛行機で帰った。

奴国、伊都国の歴史に触れ、海の守り神である宗像大社にお参りし、観世音寺の巨大な仏像を拝観し、鴻臚館の歴史に触れ、素晴らしい旅であった。